

対象年度		令和 4年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート													
事務事業名		地域介護予防活動支援事業						予算事業名		地域介護予防活動支援事業費							
予 算 科 目		会計	04	款	項	目	事業	要求区分	介護保険法								
				03	02	01	1202	経常経費	根拠法令								
総合計画体系		みんなで支えあい 安心して暮らせる地域福祉を目指そう							事業の区分		主要事業						
		高齢者が生き生きと安心して暮らせる地域づくり															
		介護予防の推進							担当課係等		介護福祉課						
事業期間		継続 (年度～ 年度)										長寿支援係					
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】									
すべての高齢者が、介護予防の知識を身につけ、心身の健康に寄与する活動に取り組むことのできる環境をつくる。								平成18年4月介護保険法改正に伴い、高齢者の心身機能・活動能力・社会参加等の生活レベル低下による要介護度の悪化を予防する取り組みの強化として地域支援事業(介護予防事業)が施行された。									
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】								【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】									
【隔年で養成】								第1号被保険者、その支援のための活動に関わる者									
①介護予防サポーター（養成後、育成支援） ・担い手を養成・育成していく ・高齢者サロンの運営を推進していく																	
②シルバーリハビリ体操3級指導士（養成後、県からフォローアップ有） ・担い手を養成・育成していく ・通いの場における体操教室を推進していく								【事業をとりまく環境の変化】 平成29年度から介護予防・日常生活支援総合事業を開始し、地域における住民主体の介護予防活動の育成・支援を行う地域介護予防活動支援事業を実施している。その中で、介護予防の担い手を増やすことや継続的な活動支援が求められている。									
【令和 4年度 事業内容】				【令和 5年度 事業内容】				【令和 6年度 事業内容】									
・介護予防サポーター養成 ・介護予防サポーター育成 ・高齢者サロンの支援				・介護予防サポーター養成 ・介護予防サポーター育成 ・高齢者サロンの支援				・介護予防サポーター養成 ・介護予防サポーター育成 ・高齢者サロンの支援									

■事業費

		R02年度		R03年度				
財源内訳	国庫支出金	110	139					
	県支出金	27	36					
	地方債	0	0					
	その他	55	78					
	一般財源	29	36					
歳入計（千円）		221	289					
歳出内訳	節（番号＋名称）		金額（千円）	金額（千円）				
	10 需用費		69	152				
	11 役務費		9	16				
	12 委託料		143	121				
歳出計（千円）（A）		221	289					
伸び率（％）			30.76					
備考	総合計画60ページ 予算書281ページ							

令和 2年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R02年度	R03年度	R04年度
活動 指標	養成人数	人	目標	181.00	191.00	201.00
	介護予防サポーター、シルバーリハビリ体操指導士の養成講習会を実施する		実績	196.00	0.00	0.00
	スキルアップ研修会	回	目標	3.00	6.00	6.00
	介護予防サポーターの資質向上のためスキルアップ研修会を開催		実績	3.00	0.00	0.00
成果 指標	高齢者サロン参加者	人	目標	120.00	120.00	160.00
	介護予防サポーターが運営する高齢者サロンへの参加者		実績	0.00	0.00	0.00
	いきいきヘルス体操教室参加者	人	目標	10,700.00	10,700.00	12,000.00
	いきいきヘルス体操教室への参加者		実績	3,849.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	高齢者人口が増加する中、高齢者自身による介護予防活動を推進する必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	法の趣旨に基づく事業であり、市が介護保険を適正に運営するために関与すべき事業であるため。
	手段の妥当性	A 妥当である	養成講習会には専門的な知識や技術を提供する必要がある、現在の手段は適正と言える。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらも言えない	現在の職員状況から、効率的に実施していると言える。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	活動者はボランティアであり、受講を希望すれば参加できるため大きな偏りはない。
有効性	成果向上の余地	B どちらも言えない	活動者の意欲は感じられるが、新型コロナウイルスの影響で事業を中止にすることが多くなり成果に結びついていない。
進捗度	事業の進捗	B どちらも言えない	新型コロナウイルスの影響により、計画通りに事業が実施できず影響が出ている。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
この事業を推進するためには、住民の力が重要になる。活動者を募集しても男性の参加者が少ないことや申込者の高齢化が課題に挙げられるため、市民への啓発が重要になってくる。市民の健康や介護予防への興味関心を引き出すことを意識して取り組みたい。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
新型コロナウイルスの感染状況をみながら、継続的な活動支援を行っていく。その中で、活動者が自主的にサロンや通いの場に取り組めるよう体制づくりを進めて行く。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 介護予防に向けた取り組みが主体的に実施されるよう地域社会の構築を目指し、介護予防に関する知識の普及・啓発等の介護予防に関するボランティア等の人材育成を今後も行っていく。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	